首都直下地震時の災害ボランティア活動　2022 連携ワークショップ
地域プログラム　江東区開催　報告書

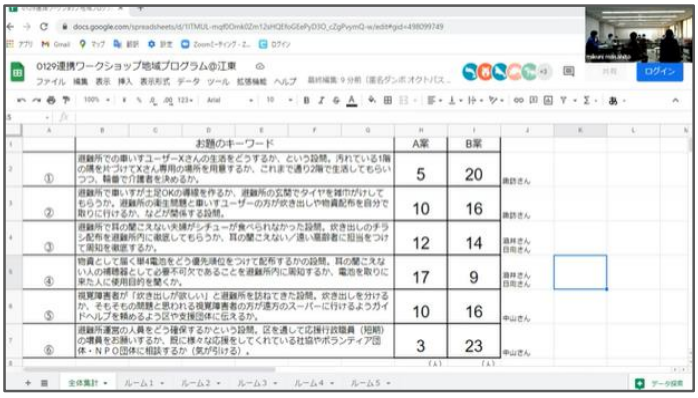
2022 年 2 月
東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議
2022 連携ワークショップ　ワーキンググループ

「災害時における要配慮者支援（災害ボランティア活動）について」

日　時　　2022 年 1 月 29 日（土）13:30～16:30
会　場　　オンライン（Zoom）
参加者　　参加者　計 40 人
　　プログラム参加者　25 人
　　（江東ボランティア連絡会、・江東ボラコー会　（区民ボランティアコーディネーター）、災害ボランティア講座受講生、江東国際交流協会、日本補助犬情報センター、朗読の会マザー・グース、傾聴の会・江東、東京東地区郵便局長会、東京 YMCA 江東センター／東陽町センター、江東区社会福祉協議会　等）
　　オブザーバー　3 人、ファシリテーター　5 人
　　（東京ユニバーサルデザイン・コミュニケーターズ、福祉体験・ボランティア学習講師、他）
　　他、2022 連携ワークショップ　ワーキンググループ　7 人
主　催　　東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議

クロスロードプログラム：
　　災害対応のシミュレーション

災害対応カードゲーム教材「クロスロード」を参考に、災害時に障害者が直面する困難、それに伴う周囲のジレンマを取り上げて実施しました。江東区に住む障害当事者がお題作りから当日のファシリテーターまでを務め、参加者も江東区在住・活動者であることから、地域に根差した開催となりました。



5 つのグループに分かれて実施したクロスロードの結果を集計し、判断者の母数が大きくなると、また異なる結果や判断理由が出てくることを確認している様子

※お題の例）
-避難所で耳の聞こえない夫婦が、炊き出しのアナウンスが聴こえず温かいシチューを食べられなかったら？
-在宅避難している視覚障害者が「炊き出しが欲しい」と避難所を訪ねてきたら？
-避難所内に土足 OK の動線を作り車椅子移動できるようにする？

本プログラム開催にあたってのポイント

- 障害当事者にワークショップのファシリテーターとして関わっていただき、３か月間かけて意見交換しながら一緒にワークのお題づくりを行った。
- 当事者には「災害の専門知識や経験」は不要であること、むしろ、平時に困っていることを災害時に置き換え、みなさんに気づいてもらいたいこと（問題）を一緒に考えたいと伝えた。また、参加者には当センターと繋がりのある障害がテーマではないボランティア団体や市民団体等に声をかけた。
- 災害対策基本法の中に「避難行動支援に係る地域の共助力の向上」があり、地域特性を踏まえ、障害者が主体的に行動できるよう、地域の防災力を高めるための研修が必要であった。

参加者からの声

- 自団体での定例会等で、このワークショップの様子を持ち帰り、内容を伝えたいと思った。
- **避難している方も含めての避難所運営をするという視点**に気づかされました。しょうがいのある方もみなさん一緒に、助け合いながら行動していけたらと思いました。
- **ご近所とのつながり作り**と、どんなひとにも、そのひとなりのできる役割りがあることを忘れないようにしたいと思う。**要支援者だから支えが必要な側、と決めつけるのではなく**、と思った。
- クロスロードについて、各班では５対０で圧倒的に多数派だった話も、会全体でみると意見が半々に分かれていた。とても考えさせられました。**より多くの人を巻きこんで、幅広い意見を集めつつ、半分の人が納得しないかもしれない方針を立てる必要がある。災害現場の大変な難しさを感じました。**